



ヒポクラ

Powered by  マイナビ

アンケート結果報告書

2023年12月6日

■お問い合わせ先

株式会社エクスメディオ 学会担当:大倉 良介

Mobile. :050-3595-0997
e-mail. :ryosuke.okura@exmed.io
Address:
〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1丁目19-19
恵比寿ビジネスタワー10階

サービス紹介



医師の会員登録



目次

アンケート概要

アンケート実施概要・・・ P4

アンケート結果(回答者基本情報)

所属先・性別・・・ P6

所属科・・・ P7

年齢・キャリア年数・・・ P8

アンケート結果(設問回答)

キャリアプランについて考えることはありますか
ご自身のキャリアについて悩みはありますか・・・ P10

ご所属学会でキャリアについての取り組みはありますか・・・ P20

腫瘍内科について知っていますか

腫瘍内科医は職場にいますか

ご自身で抗がん薬治療を行っているでしょうか・・・ P23

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイス・・・ P34

がん治療に関して、社会・医療界に対する要望・・・ P38

医師のキャリアプラン形成に関することで

医療系メディアに望むこと・・・ P41

アンケート分析

腫瘍内科知っている派 or 知らない派・・・ P45

アンケート実施概要

アンケート実施概要

企画名称

「日本臨床腫瘍学会×ヒポクラ医師キャリア・腫瘍内科に関する意識調査アンケート」

実施目的

他診療科医師から腫瘍内科(医師)がどのように見られているのか調査。
結果共有し、これからの腫瘍内科のプレゼンス・質の向上の材料とする。

アンケート対象

腫瘍内科を診療科設定している方を除く、ヒポクラユーザー。

《11月1日時点》

ユーザー実数 : 68,068名

対象条件かつ有効メールアドレス実数 : 41,907名分

アンケート回収方法

WEBアンケートにて、回収目標を1,000件として下記の方法でアンケート周知。

- ・有効な会員メールアドレスへアンケート回答依頼。
- ・ヒポクラ内にアンケート企画実施のバナーを表示し、アンケート回答依頼。

アンケート期間

- ・2023年11月1日～19日の19日間で実施

※なお、11月11日時点で目標1,000件に到達したため、メール経由での回答は締め切り、
バナー経由のみ11月19日まで実施継続とした。

アンケート回収状況

- ・アンケート回収数 1,102件
- ・有効回答数(重複等除く) 1,097件
- ・有効回答率 99.5%

アンケート結果

回答者基本情報

アンケート結果

回答者基本情報

所属先

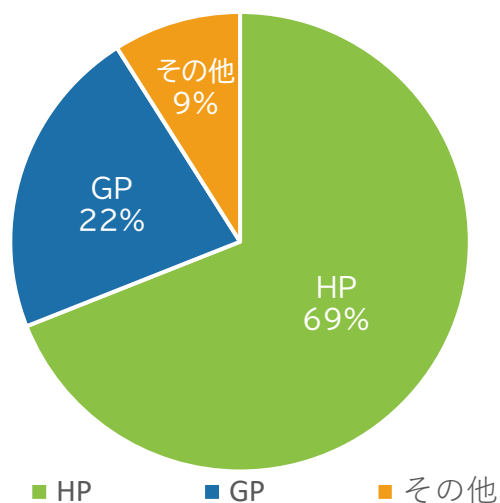
HP(総合病院系)	760	69%
GP(クリニック系)	239	22%
その他	98	9%

※HPのうち、

総合病院所属 511名(46.6%)、

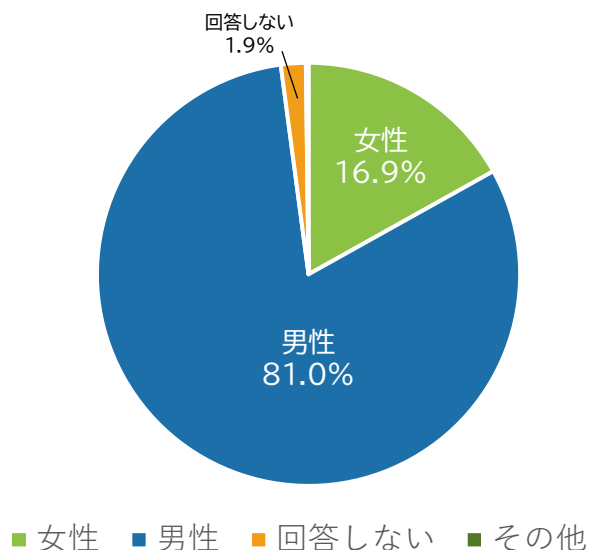
大学病院所属 235名(21.4%)、

がんセンター所属 14名(1.3%)



性別

女性	185	16.9%
男性	889	81.0%
その他	2	0.2%
回答しない	21	1.9%



アンケート結果

所属科

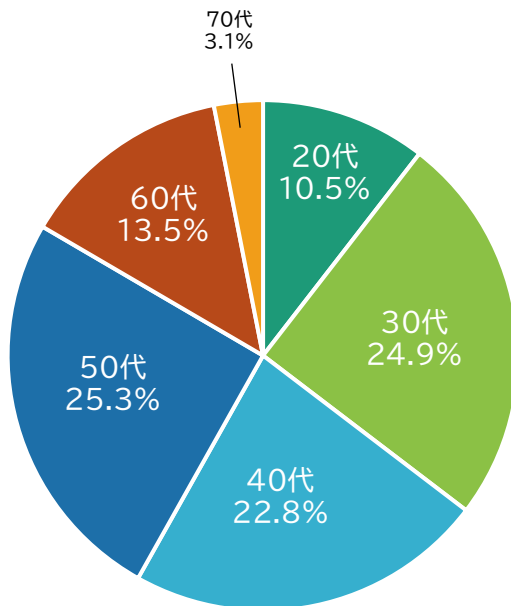
一般内科	167	15.2%
初期研修医	59	5.4%
消化器内科	54	4.9%
精神科	49	4.5%
消化器外科	45	4.1%
一般外科	44	4.0%
呼吸器内科	44	4.0%
循環器科	43	3.9%
小児科	42	3.8%
整形外科	42	3.8%
麻酔科	37	3.4%
泌尿器科	36	3.3%
皮膚科	36	3.3%
脳(神経)外科	34	3.1%
産婦人科	32	2.9%
総合診療科	30	2.7%
内分泌代謝内科・糖尿病	29	2.6%
放射線科	25	2.3%
血液内科	24	2.2%
眼科	23	2.1%
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	22	2.0%
腎臓内科・人工透析内科	18	1.6%
救急・集中治療	17	1.5%
リハビリテーション科	14	1.3%
呼吸器外科	13	1.2%
病理(診断)科	13	1.2%
形成外科	12	1.1%
歯科・口腔外科	11	1.0%
その他・回答なし	10	0.9%
リウマチ・膠原病科	10	0.9%
緩和ケア科	7	0.6%
神経内科	7	0.6%
心臓血管外科	5	0.5%
頭頸部外科	5	0.5%
美容	5	0.5%
婦人科	5	0.5%
産業医	4	0.4%
総合健診科	4	0.4%
基礎研究・実験	3	0.3%
心療内科	3	0.3%
乳腺(外)科	3	0.3%
臨床検査科	3	0.3%
ペインクリニック科	2	0.2%
感染症科	2	0.2%
IVR科	1	0.1%
在宅医療	1	0.1%
新生児科	1	0.1%
老年科	1	0.1%

アンケート結果

回答者基本情報

年齢

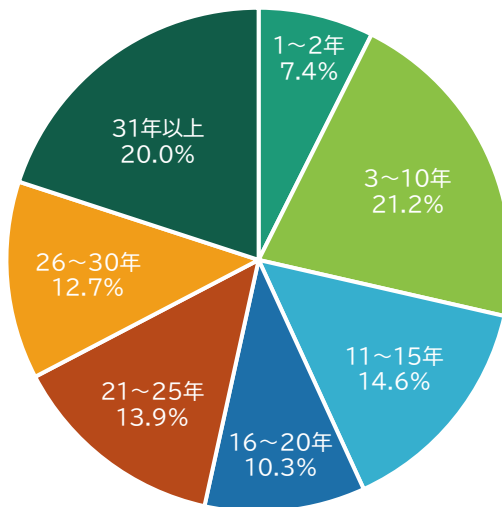
20代	115	10.5%
30代	273	24.9%
40代	250	22.8%
50代	277	25.3%
60代	148	13.5%
70代以上	34	3.1%



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

キャリア年数

1~2年	81	7.4%
3~10年	233	21.2%
11~15年	160	14.6%
16~20年	113	10.3%
21~25年	152	13.9%
26~30年	139	12.7%
31年以上	219	20.0%



■ 1~2年 ■ 3~10年 ■ 11~15年 ■ 16~20年
■ 21~25年 ■ 26~30年 ■ 31年以上

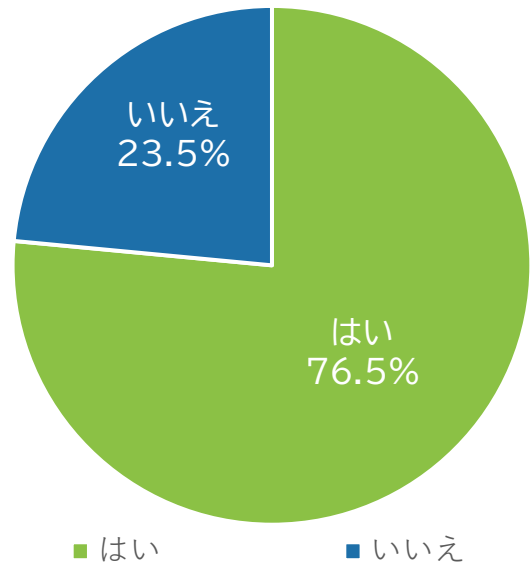
アンケート結果

設問回答

アンケート結果

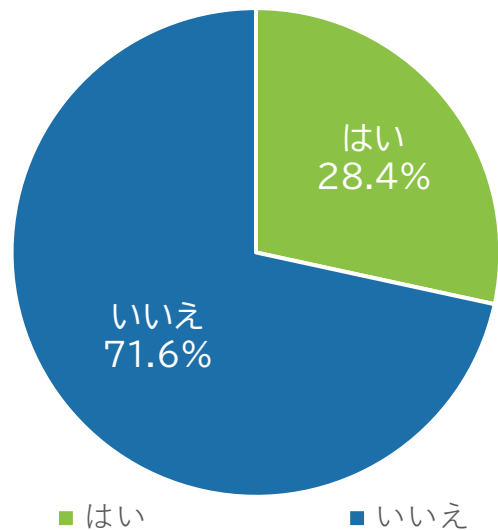
キャリアプランについて考えることはありますか

はい	839	76.5%
いいえ	258	23.5%



ご自身のキャリアについて悩みはありますか

はい	311	28.4%
いいえ	786	71.6%



アンケート結果

ご自身のキャリアについて悩みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

キャリアパス・将来の不安に関すること①

60才を超え緊急処置、手術がづらくなった

60歳以降の働き方

70代になってどこで働き続けるか

アカデミアに進むか否か

アカデミックポストを目指したいが具体的な方法がわからない

いつまでここで勤務するか

いつまで外科を続けるか

いつまで大学でキャリアを積むか

いつまで働くか

キャリアアップできない。

キャリアアップの方法

このままでいいのかな。

このままでいいのか考えることがある

このままで良いのか

このまま医局にいて良いかどうか

このまま医局に所属し続けるべきか

このまま消化器外科を続けて良いのだろうか

このまま大学にいるべきかどうか？

このまま大学勤務でいいのか。

このまま臨床医のみを続けるかどうか。

この先どうすればいいのか

この先どうなるのかな

この先どのポジションがいいか

この先眼科で食べていけるか

これからのこと

これからの人生

これまでのキャリアと現在の職務に乖離あり

これ以上の発展が見込めない。

サブスペシャリティや追加の専門性をどうするか

ずっとこのまま(専門医取得予定なし自由診療)でいいのかな？

ずっと大学にいるべきか、そうでないか

セカンドキャリアについて

セカンドライフについて

どこで大学を離れるか？ いくつまで働くか

もう少し経営的な仕事に携わりたい。

もはや手遅れだが、このキャリアで良かったのか

よりハイボリュームの施設に移るかどうか

医局にいるべきか否か

医局に所属し続けるかどうか

医局の辞め時

医局や今後の内科医の展望

医局を辞めた後の進路

アンケート結果

ご自身のキャリアについて悩みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

キャリアパス・将来の不安に関すること②

医局を離れるタイミング

引退時期 ※2件

院長として続けられるか

院長になるべきかどうか。

何が自分に向いてるかわからない

何科にすすむか

何歳まで常勤医として働くべきか

外科医のまま過ごすかどうか

外来専業でいくか

勤務医に戻りたい

勤務医をこのまま続けるかどうか悩んでいます。

研究に興味があるがその道でよいのか

今のポジションでいつまで今のところにいられるか否か

今の病院の部長職のままでよいか

今後

今後いつまで手術を続けていけるのか

今後このまま医局人事に乗って仕事を続けるべきかどうか悩む。

今後どのようにしていくか？

今後について

今後に関して

今後のキャリア形成について

今後のこと ※3件

今後の過ごし方

今後の勤務先 ※2件

今後の進路 ※2件

今後の進路について

今後の進路に関して

今後の動向が不安

最終的に落ち着く勤務先

指導医を継続するかどうか

自身の専門を活かした仕事先がいつまで確保できるか

将来

将来が不安 ※2件

将来どうしていくか

将来どのように働けばよいのか 専門医取得後の働き先

将来について

将来の専門性について

将来の方向性

将来的な転科など

診療科選択

アンケート結果

ご自身のキャリアについて悩みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

キャリアパス・将来の不安に関すること③

人生

専門医、指導医等資格をいつまで維持するか、現役で週40時間働くのをいつまでにするか、など

専門医をとった後どうしようか

専門性の深め方や、医療以外の仕事の模索

専門性を維持できるか ※2件

専門性を発揮しながらできることを増やしていくこと

体力的な心配

退職の時期について

退職後

大学などで研究をするかどうか

大学を辞めたらどう働いていくか

大学院にこれからでも行くか、年をとってからの働き方

大学病院にいるが今後の進み方について考えています

定年

定年後

定年後どうしようか

定年後のキャリア

定年後の勤務先について

定年後の雇用があるか

定年後の再就職

定年後の職場探し

定年後の身のふり方。

定年後の進路

定年後の動向

定年退職後のこと

定年退職後の勤務先

転科を考えている

入局に関して

年金受給年齢まで働けるか

年齢

脳神経外科医ですが、昨年手術を続ける環境を離れ、「緩和ケア」と「産業保健」に興味がありますが、今後どのようにキャリアメイクするばいいのか悩んでいます。

博士号を取得するかどうか。

博士号取得後のキャリアについて

漠然と ※2件

複数の科に興味がある。バーンアウトしないかどうか。

保険診療の患者さんの多くが老衰と思うような状態で治療していて、働く意義が見出せない

本年度で定年である

領域広すぎてキャリア迷子

臨床に戻るかどうか

臨床能力の低下の心配

アンケート結果

ご自身のキャリアについて悩みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

結婚・出産・子育て・家庭に関すること

結婚や出産のタイミング、出産をしたいとなると専門医取得が遅れるのではないかと出産も考えるが、医師としてのキャリアも築いていきたい。国内留学もしたい。

出産との兼ね合い

子育てとの両立 ※6件

家庭との両立 ※3件

大学院進学や留学について。家庭と両立できるか。

結婚・出産のタイミングについて

ライフプランとの両立

結婚したい

家庭の事情でキャリアを諦めざるを得なくなった。

プライベートの為キャリアの断念していること

出産のタイミングなど

家庭や子育てとの両立

育児中だとなかなか採用してもらえない、常勤になれない

ワークライフバランスを重視した働き方への移行をどのタイミングで行うか

第2子のタイミング

産休等でブランクができるが、その後にまた勉強しなおせるのか自信がない

専門医取得と結婚、出産などの兼ね合いについて

家庭と仕事の両立

私生活との両立

育児家庭と仕事と研究の3つの両立

育児終了後のキャリアについて

子どもができ、働く時間と働き方について迷いばかり

妊娠

子育て後の働き方

夫の仕事に合わせないといけない

キャリアと家庭との両立が難しい

仕事と家庭の両立

アンケート結果

ご自身のキャリアについて悩みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

労働環境・条件(給料・収入含む)に関すること①

収入面やキャリアなど

奨学金の兼ね合いで地域病院での勤務が必要。

当直をしたくない

過重労働

転職 ※6件

ワークライフバランスがとれるか

食っていけるか

今後の働き方

医局を辞めること

お金、したいこと

地元に戻ってからのポスト

大学病院をそろそろ辞めたい。

収入面

いつまでハードに働くか

ベストな病院選び

市中でも研究と臨床両方したい

専門をがっつりやっていきたいのにできない

いつまで今の病院で勤務するか

奨学金の義務履行終了後のキャリアについて

このまま大学病院にいるのがいいのか、給与のよいところうつるのがよいのかなど

今後の勤務先

どこで働いていくか

勤務場所について

給料

将来も現在の勤務先でいいかどうか。

転職します

退局時期

所属の医局が専門医試験について協力的ではなくサポートも得られずなかなか苦しい。過去の担当者にパワハラをされても相談先もない。Facebookで個人が特定できる形で思い込みを投稿するので関わりたくない医師と関わらざるを得ない。物理士も態度が自分に対してのみキツく周りが指摘するほどだが改善はなく保身に終始してよい治療ができないか。キャリアの変更を考えている。

やりがいと収入の乖離

転職について

給与

日本の制度が嫌いだが今から海外に行くのも面倒

この先の勤務方法

職場をライフスタイルに合わせて変えたい

アンケート結果

ご自身のキャリアについて悩みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

労働環境・条件(給料・収入含む)に関すること②

昇進や勤務地のこと

臨床と学術のバランス

医局人事に従っても

給与

大した病院で勤務したことがない

いつ職場を移動するか。金銭面など。

資格、転職

今の病院にいてよいものか。

病院を変えるかどうか

医局をどうするか

老化と業務負担

働く国

転職について

待遇が悪い。

このまま急性期病院でがんばれるのか不安

転職しようか迷っている

数年後には転職。

転職のタイミング

転科

内視鏡する機会がなく、こなままでいいのか

給与が上がらない

今の病院では、診断する疾患に偏りがある。

昇進

当直のない病院に移りたい

時間がない

今後の働き方

働きづらい環境になってきた

勤務日数

63歳以上で週5はしんどい。

忙しく落ち着いた仕事ができない。

これからのワークライフバランス

アンケート結果

ご自身のキャリアについて悩みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

開業・独立・家業に関すること

いずれ独立したい

開業

開業すべきかどうか

開業するか、勤務医になるか

開業するかどうか ※5件

開業するか悩む ※2件

開業するか否か

開業について ※3件

開業までどこに勤務するか

開業を考えている

今後の方向性、開業？など

今後医局を出るか、開業するかどうかなど。

実家の継ぎ方

独身であるが、いつまで臨床に携わるか。いつ開業するか。

入局後何年で実家を継ぐべきかなど。

専門医取得に関すること

専門医を取るタイミングやサブスペシャリティなど。

サブスペを取るかどうか。

専門がない

専門医を取得していない

第2専門の資格をとれるか

専門医を取りすぎている

アンケート結果

ご自身のキャリアについて悩みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

医学生・初期研修医ならでのこと

3年目の進路について

専攻科の決定

専門専門領域を何にするか

今後の進路 ※5件

将来の病院選択

何科に進むか

専攻医として働く場について

専攻医についえ

志望科が決まらない

医局含めた進路

医局に入局するのか、学位をとるかどうか

どの診療科に進むかまだ決まっていない

今後の専門科目について

専門研修を大学でやるか市中でやるか

専門を深めるかどうか

専攻の適性

今、専門医を取得予定(今年受験して結果待ち)なのですが、それ以降の進路をどうしようか悩んでいます。

今後の就職について

研究を続けるか、臨床に戻るか。

専門領域の研鑽をどう積んでいくか

専門医が取れるか

今後の就職

アンケート結果

ご自身のキャリアについて悩みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

その他

留学に関して

スキルアップの機会がない

J-oslerが通らない

研究・臨床・教育のバランスと自分が深めるべき領域に関して

非常勤での働き方

留学したい

学位の取得に失敗していて、今後何処かで再取得出来るチャンス、気概があるか。

再受験で医師となったため

資格

留学したい

体力が落ちてきた

飽きた

いつまで手術ができるか。

手術件数について

手術執刀数の確保

博士号を取得できていない

海外留学しなかったせいもあるかもしれないが、英語が話せない

褐色細胞腫の治療について学んでいきたい。

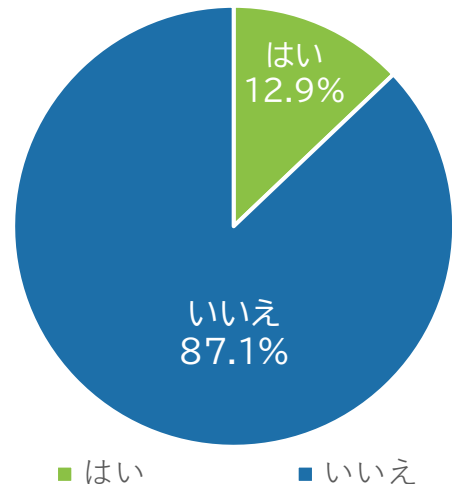
外科学会

もう達成できないですね。

アンケート結果

ご所属学会でキャリアについての取り組みはありますか

はい	141	12.9%
いいえ	956	87.1%



～「はい」と答えた方のコメント～

学会名 + 具体的な取組記載のもの

日本血液学会 女性のためのキャリアアップセミナー等

リウマチ学会。男女共同参画についてのシンポジウムを学術集会内で開催している

腎臓学会は女性参画に関して注力している。

整形外科学会、キャリアプランのこうえんなどがありました

糖尿病学会でキャリアの取り組みはあるように思いますが、特に私自身がコミットしているわけではございません。

病理学会総会で、留学や女性病理医のキャリアについて取り上げてくださってます。

緩和医療学会 若手医師のMLや学会でキャリアパスのセッション、ロールモデルの紹介など

肝臓学会→キャリア支援・ダイバーシティ推進委員会

消化器学会 女性医師推進プログラム 学会時の託児所など

小児科学会。女性医師のサポート制度があるような気がする。

外科学会 女性外科医の働き方改革

皮膚科
女性のキャリアプランとかよくやってます。関係ないけど

食道学会の臨床試験

病理学会。各種セミナー

高血圧学会 若手の活性化、活用促進、シニアの活用促進

日本外科感染症学会、臨床研究委員会

消化器学会、キャリア支援、セミナーなど

脳神経外科、65歳以上の専門医は診療実績の提出が不要

アンケート結果

ご所属学会でキャリアについての取り組みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

学会名のみ(専門医・お立場含む)記載のもの

cvit

JSTR.JAPhMed等等

リウマチ

癌、癌治

呼吸器外科学会

呼吸器内科学会 ※4件

国際保健医療学会、公衆衛生学会

循環器学会 ※2件

小児科学会、アレルギー学会

消化器外科学会

腎臓内科学会 透析学会

成育医学会

糖尿病学会 ※2件

糖尿病学会・感染症学会・臨床検査医

内科学会 ※5件

内科専門医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓学会専門医

日本プライマリ・ケア連合学会 ※4件

日本リハビリテーション医学会 ※2件

日本医学会

日本外科学会 ※5件

日本外科学会、日本小児科学会、日本消化器外科学会、日本膵胆肝外科学会、

日本外科学会、日本小児外科学会、日本小児泌尿器科学会、医学教育学会

日本外科学会、日本消化器外科学会

日本眼科学会 ※2件

日本救急医学会

日本形成外科学会 ※2件

日本芸術療法学会の理事及び常任編集委員をしている。次期大会に向けて、これまでの業績を書籍にまとめている。

日本血液学会 ※3件

日本口腔外科学会 ※3件

日本甲状腺学会理事

日本産科婦人科学会 ※5件

日本産業衛生学会 ※2件

日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会

日本耳鼻咽喉科学会

日本耳鼻科学会 めまい平衡医学会

日本集中治療医学会

日本小児科学会 ※7件

日本消化器病学会・日本小児科学会・日本超音波学会

日本神経学会 ※3件

日本整形外科学会、日本股関節学会

日本精神神経学会 ※4件

日本脳神経外科学会 ※2件

日本泌尿器科学会 ※3件

日本皮膚科学会 ※6件

日本皮膚科学会 維持

日本病理学会 ※3件

日本麻酔科学会 ※3件

日本麻酔科学会、日本ペインクリニック学会、日本日本疼痛学会

日本臨床検査医学会

肺癌

アンケート結果

ご所属学会でキャリアについての取り組みはありますか～「はい」と答えた方のコメント～

具体的な取組のみ記載の物

キャリアプラン形成の講演会など
留学についてなど
若手医師の会が展開している
学会でキャリアに対するテーマがある
女性医師などのキャリアについて学会で検討する場がある
学会での相談会や講演
女性キャリア支援
相談の場や施設紹介など

その他

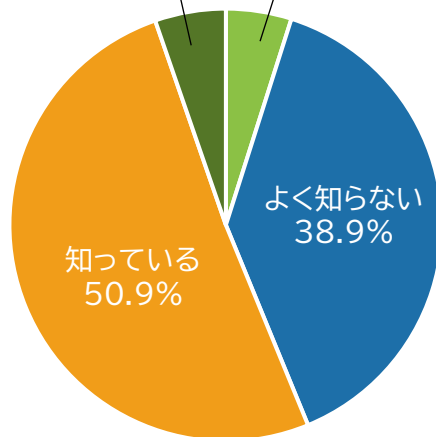
専門医
腫瘍専門医を取得予定
専門医、認定医獲得
専門医の習得
学会の専門医、指導医取得
評議員など
よく知らないが、内科学会はあったはず
女性医師のキャリアパスの検討
具体的には知らない

アンケート結果

腫瘍内科について知っていますか

全く知らない	54	4.9%
よく知らない	427	38.9%
知っている	558	50.9%
大変よく知っている	58	5.3%

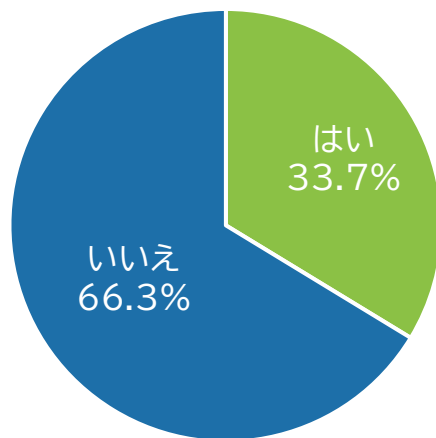
大変よく知っている 5.3%
全く知らない 4.9%



■ 全く知らない
■ 知っている
■ よく知らない
■ 大変よく知っている

腫瘍内科医は職場にいますか

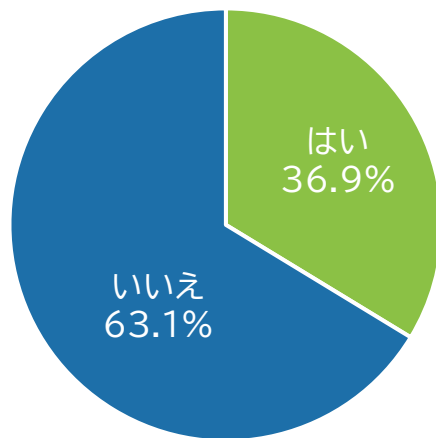
はい	370	33.7%
いいえ	727	66.3%



■ はい
■ いいえ

ご自身で抗がん薬治療を行っているでしょうか

はい	405	36.9%
いいえ	692	63.1%



■ はい
■ いいえ

アンケート結果

ご自身で抗がん薬治療を行っているでしょうか

～「はい」の場合の追加設問～

⇒「もしご自身以外にも抗がん薬治療を主導されている方がいらっしゃればお書きください」

上司・先輩・同僚について

上司

院長 ※2件

同僚

所属科・他科について

ほか医師

科として恩顧なっている

外科医

外科医がしている

各科

各科担当医

血液内科だから

血液内科なので抗がん剤治療は行っています。

主科が行っていました。

腫瘍内科 ※4件

腫瘍内科、各科

腫瘍内科からの引続き

腫瘍内科の先生方

腫瘍内科医、他の診療科の医師

腫瘍内科医師

腫瘍内科常勤医も在籍しています

消化器外科など各主治医

数人おります。

通院治療センター医師

内科

内科医

婦人科腫瘍グループ

アンケート結果

「もしご自身以外にも抗がん薬治療を主導されている方がいらっしゃればお書きください」

癌種・療法・薬剤について①

ALLなど小児血液腫瘍領域

オブジーボ

ケモしている

テモゾロミドを使用

テモダール

はいがんちりよ

ホルモン治療

メラノーマ

ユーエフティー

リツキサソ

リュープリン等の前立腺癌治療

レンビマ

わあんふりた

悪性脳腫瘍に対する化学療法

胃がん、大腸がん、肝臓がん、膵がん

胃癌 大腸癌 乳癌 食道癌 膵癌

胃癌、肝臓がん、肺癌

胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆嚢癌、膵癌、原発不明癌

胃癌・大腸癌

化学療法

化学療法外来をやっている

肝細胞癌

肝細胞癌TACE

肝細胞癌など

肝細胞癌の治療

経口抗がん剤のみ

口腔癌の化学療法

甲状腺がん

甲状腺がん レンバチニブ

子宮頸がんで標準治療

治療中の患者の手術麻酔

自分を中心に肺癌診療を行っている

消化管癌の化学療法を担当

消化器外科、乳癌の化学療法

消化器癌、肝癌

消化器癌、乳癌

食道癌、胃癌

神経膠芽腫

前立腺がんのホルモン療法

前立腺癌に対して、治療施行中。

アンケート結果

「もしご自身以外にも抗がん薬治療を主導されている方がいらっしゃればお書きください」

癌種・療法・薬剤について②

前立腺癌の

前立腺癌のリュープリン注射など

大腸癌を中心に

投薬

頭頸部癌、甲状腺癌

頭頸部腫瘍チーム

乳がん手術後のタモキシフェン投与

乳癌治療

乳腺外科として診療している

脳腫瘍の治療

肺がん

肺がん治療

肺癌

肺癌治療

泌尿器癌一般

婦人科癌

免疫療法、ホルモン治療

膠芽腫

膀胱癌

膀胱癌の化学療法など

その他

正確には行っていた

行っている

肺癌の抗癌剤ちりょうは前医から引き継いで行うことはあります。

自由診療での末期の方

特にいません。

アンケート結果

「抗がん薬治療を主導されている方をお書きください(がん診療連携拠点病院等含む)」

ご自身で抗がん薬治療を行っているでしょうか

～「いいえ」の場合の追加設問～

⇒「抗がん薬治療を主導されている方をお書きください(がん診療連携拠点病院等含む)」

上司・先輩・同僚

“バイネーム記載” ※20件

指導医 ※6件

消化器外科部長

上級医 ※21名

上司が決めたレジメンを行っている

同僚

部長

他施設について① (バイネーム併記の場合は〇〇先生と表記変換)

エリアの大学病院

がんセンター

がんを合併している患者はがん治療は他院で加療している

がん患者は基本的に紹介する

ガン拠点病院

がん拠点病院に紹介

がん治療地域拠点病院

がん診療連携拠点病院 ※2件

悪性疾患は他院へ紹介しています。

旭川厚生病院 乳腺外科 〇〇先生

杏林大学付属病院、武蔵野赤十字病院

依頼している

院内にはいない

岡山済生会総合病院

岡山大学病院など

関西医科大学

基幹病院 ※2件

基幹病院の指示

拠点病院へ紹介

近くの総合病院の先生

近隣の急性期病院

近隣の拠点病院

近隣の中規模病院

近隣の病院で行われる

近隣病院

アンケート結果

「抗がん薬治療を主導されている方をお書きください(がん診療連携拠点病院等含む)」

他施設について②（バイネーム併記の場合は〇〇先生と表記変換）

県立病院やがんセンターに担ってもらっている

抗がん剤治療を行っている方の診療は行なっているが抗がん剤の処方はない

国立病院機構長崎医療センター

堺市立総合医療センター

札幌医科大学附属病院

市立ひらかた病院・〇〇先生

市立札幌病院等

自院にはいない。他の総合病院腫瘍内科医等で行われている。

周辺の総合病院

秋田赤十字病院

紹介する

紹介先 ※2件

紹介先病院医師

聖マリアンナ医科大学病院

仙台医療センター

専門病院に転院

前医で処方され当院で継続可能な薬剤であれば継続使用するが、自ら抗がん剤治療を開始する事はない。

総合病院 ※3件

総合病院にお願いしています

総合病院に紹介

他の専門病院

他医院の専門医にお願いする

他院 ※5件

他院に依頼しています

他院に紹介

他院の医師にお願いしている

他院へ紹介 ※2件

他院医師

他院紹介

大学等基幹病院へ依頼している。

大学病院 ※6件

大学病院など、より大きな拠点病院の先生に紹介する

大学病院の腫瘍内科医

大学病院の腫瘍班

大久保病院外科〇〇先生。

大阪医科薬科大学 消化器内科 化学療法」

大病院、拠点病院

地域の主幹病院

竹田病院

都立小児総合医療センター医師

東京医大

当院は、糖尿病専門で他院を紹介します

病院 ※2件

病診連携している

病診連携先

武蔵野赤十字病院

北海道大学 〇〇先生

名寄市立病院

立川病院

連携をとっている近隣の総合病院

連携医療機関

連携病院

アンケート結果

「抗がん薬治療を主導されている方をお書きください(がん診療連携拠点病院等含む)」

所属科・他科について①

がん化学療法については、外科が中心にされています。

コンサルト先

それぞれの科の主治医

医師

一般内科医や外科医

一般内科医師

院内内科医

化学療法科

化学療法部

外科 ※3件

外科 各内科

外科、呼吸器等の主科

外科、消化器内科、呼吸器内科、泌尿器科、乳腺外科、が行っている

外科など

外科の医師

外科の先生 ※2件

外科や内科が主導です

外科医 ※11件

外科医 血液内科医

外科医 内科医

外科医、血液内科医、内科医

外科医、消化器内科医、血液内科医

外科医、内科医。

各科 ※5件

各科で実施

各科で担当

各科の主治医

各科の腫瘍患者を受け持った医師

各科の担当医

各科の内科医や外科医

各科主治医

各々の専門医

各主科

各診療科 ※7件

各診療科の主治医

各内科

角化担当医

癌を扱う各科主治医

癌患者の主治医

アンケート結果

「抗がん薬治療を主導されている方をお書きください(がん診療連携拠点病院等含む)」

所属科・他科について②

癌専門医

癌併発患者はみるが、その科の医師に任せている。

血液腫瘍科

血液腫瘍専門の小児科医

血液内科 ※4件

血液内科、消化器内科、呼吸器内科などの先生方、外科系の先生方が行っております。

血液内科・消化器内科・呼吸器内科医師

血液内科など

血液内科医師

呼吸器科、外科など

呼吸器内科

呼吸器内科 血液内科

呼吸器内科や消化器外科がしている

呼吸器内科医

呼吸器内科医

主として内科医師

主に外科、呼吸器内科など

主に消化器内科で行っているため関わる機会がないです

主科 ※4件

主科の先生

主治医 ※3件

腫瘍を担当されている先生

腫瘍科

腫瘍外科

腫瘍血液内科dr

腫瘍専門医

小児科の血液腫瘍チーム

小児血液内科

消化器

消化器、血液、呼吸器内科

消化器、呼吸器などの医師

消化器科など

消化器外科や泌尿器科、婦人科など専門科

消化器内科、血液内科

消化器内科、呼吸器内科、血液内科、消化器外科など

消化器内科や呼吸器内科など各診療科で行っている

消化器内科医

消化器内科医師

専門医 ※2件

アンケート結果

「抗がん薬治療を主導されている方をお書きください(がん診療連携拠点病院等含む)」

所属科・他科について③

専門医に依頼する

専門医に紹介

専門医に任せています。

専門医へ送っている

専門科に紹介

臓器別の内科

他の医師

他の科では行っているようです

他の診療科

他医に任せている

他科

他科のDr

他科の医師 ※5件

他科の先生

大学病院の腫瘍専門医

担当医

担当内科外科

当院の内科医

当院外科、内科医師が行なっている。

当院常勤の外科医師

当該科

当該科の医師(腎癌なら泌尿器科)

当該科の主治医

当該科医師

頭頸部外科

同じ病院の外科、内科医師

同一病院の腫瘍を診ている診療科

内科 ※2件

内科の医師

内科医 ※7件

内科医、外科医、脳外科医等

内科医師 ※2件

内科系医師

泌尿器科医

皮膚科や耳鼻咽喉科などの連携科

病院の主治医

放射線治療の依頼科にて行っています

薬剤師

アンケート結果

「抗がん薬治療を主導されている方をお書きください(がん診療連携拠点病院等含む)」

腫瘍内科と記載のあるもの

各科(消化器内科、呼吸器内科など)、腫瘍内科

各科、腫瘍内科

各科の医師または腫瘍内科の医師

各専門診療科および腫瘍内科

自院の腫瘍内科

自院腫瘍内科医

自身では抗がん剤治療行っておらず、腫瘍内科にコンサルタントさせている

腫瘍内科 ※17件

腫瘍内科、外科 ※2件

腫瘍内科、外科など

腫瘍内科、血液内科

腫瘍内科、消化器内科、呼吸器内科、など

腫瘍内科Dr ※2件

腫瘍内科に依頼している。

腫瘍内科の医師

腫瘍内科の先生 ※2件

腫瘍内科の先生方 ※3件

腫瘍内科や各専門家

腫瘍内科医 ※17件

腫瘍内科医(大学派遣)

腫瘍内科医にコンサルトしている

腫瘍内科医師 ※3件

腫瘍内科部長

小児血液腫瘍内科

消化器内科、呼吸器内科、乳腺外科 腫瘍内科など

紹介先の腫瘍内科

担当する臓器の科か腫瘍内科

当院の腫瘍内科医

アンケート結果

「抗がん薬治療を主導されている方をお書きください(がん診療連携拠点病院等含む)」

その他

腫瘍に関わらない

抗癌薬治療は行なっていないが、RI治療は行なっている。

以前の職場では自分で抗がん薬治療を行っていた。腫瘍内科の先生も見え、よく相談していた。

出身大学には腫瘍内科がありました。今は治療もしていません

がん治療はやめました

外科的に取り除くため抗がん剤は使用しない

ホルモン療法程度。

以前はしていた

担癌患者のフォローアップは行っている

勤務先の施設ではがんの治療を行っていない

腫瘍内科医がいない

開業医なので抗がん剤に携わることがないです

産業医のため治療は行っていません

悪性腫瘍を扱っていない

勤務先で行っていない

自身で抗がん薬治療はおこなっていません。

がん患者は治療していない

化学療法は実施していません

以前はやっていたが、転職後はしていない。

子宮がん

がん患者の治療していない

アンケート結果

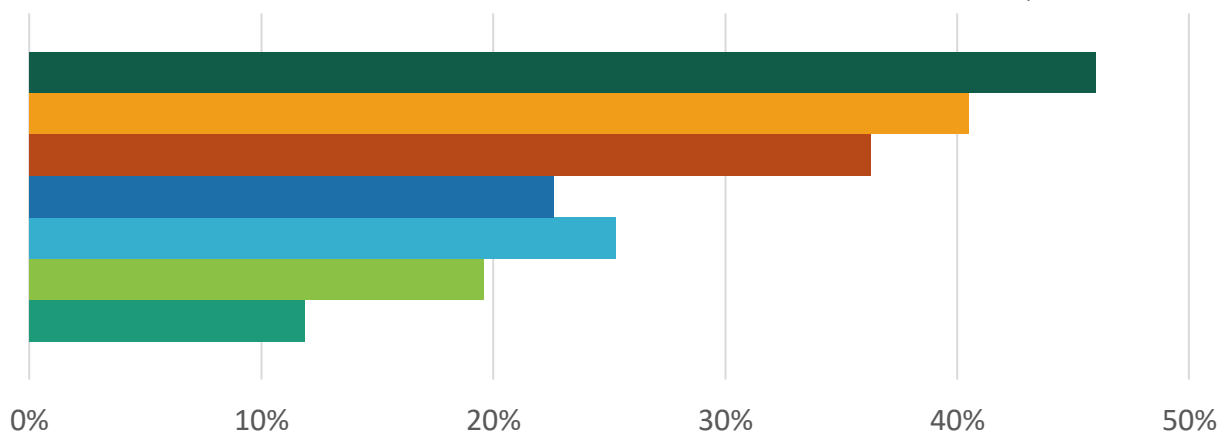
腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイス

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイスとなるとお考えのものを選択してください(複数選択可)

有効回答数 1,097件に対して

がん種にこだわらず患者さんを診てほしい,	505	46.0%
抗がん薬治療から緩和ケアまで診てほしい	444	40.5%
自科で薬物療法を行うことが難しい症例を診てほしい	398	36.3%
化学療法治療室の管理をしてほしい	248	22.6%
腫瘍内科の仕事の範囲を明確にしてほしい	278	25.3%
患者さんに抗がん薬治療をいつまで行うかどうかを明確にしてほしい	215	19.6%
上記選択肢にはない	131	11.9%

有効回答数 1,097件に対して



- がん種にこだわらず患者さんを診てほしい,
- 抗がん薬治療から緩和ケアまで診てほしい
- 自科で薬物療法を行うことが難しい症例を診てほしい
- 化学療法治療室の管理をしてほしい
- 腫瘍内科の仕事の範囲を明確にしてほしい
- 患者さんに抗がん薬治療をいつまで行うかどうかを明確にしてほしい
- 上記選択肢にはない

アンケート結果

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイス

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイスがあれば具体的にお書きください①

irAEなど副作用について教えて欲しい

irAEは当科も関与することになりますので、連携したいです。

ある程度の併発疾患は診てほしい

カバー範疇がとても曖昧。

特に産婦人科においては、化学療法についてはほとんど関与しない。

クリニックからの直接紹介のルートがあるかどうか]分からない。

ケモだけするのではなく全人的なケアをして欲しい

コミュニケーション

コンサルトチームとして、害作用を含めた抗がん剤に関連するあらゆる相談にのってほしい

研修医の教育に積極的に関わってほしい

担当科がはっきりしないがん患者を適切に振り分ける、または、自身で診る、を行ってほしい

コンサルトできる条件を明らかにしてほしい

ターミナル・ケアに関する知識も深めて頂きたい。

ターミナルの移行が全体に遅めだと思えます。また適切なタイミングで緩和治療や

局所療法(オリゴメタに対する局所照射によるメリットが多くの癌腫で指摘されている)を考慮してほしい

もっと患者の全体像を見てほしい

もっと漢方を勉強してほしい

やはりACPをして欲しい

やはり、感染対策委員のように相談に乗ってもらえるのがなによりです。

やはり腫瘍内科医に小児のがんをみるのは無理と思えます。

が、AYA世代や移行期に関しては関与してほしいと思えます。

わからない

悪性腫瘍の患者が救急外来受診することが多く、救急領域もサポートしてほしい。

院内勉強会

化学療法について気軽に相談したい。

化学療法に関して主導権を取って外来治療を行っていただきたい。当院では不在ですので求めています。

なれない化学療法を一般消化器内科医として行うことに不安があります。

化学療法の中止や、そもそも始めるか否かについて、純粋な医学的適応に限らずACPも含めて相談・合意をして、それを他の関係者・医療者に共有すること。

我々の忙しさが緩和される

外傷(骨折など)での手術時の調整(投薬やサイクル、必要なら転院指示など)をお願いしたい。

各科の専門医との腫瘍治療の棲み分けが難しいと感じる。コンサルトがあれば診るけどなければノータッチ。

どこまで腫瘍内科の分野になるのかどういう症例を得意とするのかを他科に示してほしい。

患者についてのカンファレンスをする。

患者のメンタルケアもできると良いのではないだろうか。

患者家族が希望していない(治療をやめたがっている)のに、他科/他院入院中に処方薬を指示してくるのはやめてほしい

監督ではなく、プレイヤーとして臨床に関わってほしいです。

緩和ケアに心配りを!

緩和ケアを誰が担当するか、よく、モヤモヤします

緩和的化学療法についてもコンサルトさせてほしい。

癌腫と化学療法がリンクしなくなっている現在、横断的に化学療法を判断でき、トータルとしてサポートできる腫瘍内科医の皆様にもっともっと幅広く活躍してほしい

化学療法を受ける患者は一回は腫瘍内科医の診察を受けるような体制を作ってほしい

そこで導入からやめぎわも含めて化学療法について説明してほしい

気軽に相談できる環境がほしい

啓蒙が必要

アンケート結果

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイス

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイスがあれば具体的にお書きください②

結局何の疾患を診るのがよく分からない

元気な時だけ見ている印象、2nd line以降などは綿密に緩和ケアと両立が必要なので、信用できない、個別症例の相談に応じてほしい

抗がん剤治療は各臓器の専門医が導入し、以後継続する事が多いと思うが腫瘍内科医はこのコースのどこにどのように関与するのがよく分からない。

国際保健でもがん診療の重要性が増しており、貢献が期待されている。

今は思いつかないです。

在宅へ返すことになった際、訪問診療をする立場の医師です。どれくらい専門医を頼ってよいのかわからないときがあります。(看取り、急変時、こちらで対応してよいのか、戻る流れになっているのか)

在宅療養で緩和ケアに移行することがあるが、終診扱いで急変時の対応いただけないこともあり、患者さんが安心できる様に終診後のバックバットの選定など、連携を強めれると幸いと考えています。

産業保健分野とは、治療と仕事の両立支援で連携することも多いと思うが、お忙しいと思うので、両立支援コーディネーター等の活用をお願いしたい。

仕方がないのかもしれないが、何か起こるとなんでも丸投げは良くないと思います。

資格に見合った給料がもらえることはほぼない

時々、非専門医でも分かるように新しい知識を教えてほしい

治療だけなのか、緩和まで行うのか、守備範囲が不明瞭と思います。

治療チームの一員に加わってほしい

治療抵抗性の次なる一手の相談

自院では上記の項目すべてをやってもらっています。

自病院にいるなら心強い

自分の所属では大変お世話になっています。自分自身がごくたまに悪性腫瘍患者を治療しなくてはならない科で、診断時点で困ることがあります。今は診断されないと紹介を受けないというスタイルのようなので、できれば診断の段階からフォローアップしていただけるとより心強いです。

主科があってリエゾンの関わるのか、腫瘍内科が主体的に化学療法をし、手術のタイミングで外科(消化器外科、呼吸外科、乳腺外科、頭頸部外科、泌尿器科、婦人科)、放射線治療のタイミングで放射線科に紹介するのか？後者だと腫瘍内科医は全ての科の手術を熟知している必要があることになる。

主治医と一緒に勉強しながら患者を診てほしい

守備範囲がわからない。

もっと内科、外科と密な関わりが必要なのでは

手術適応が無い患者様、もしくは術後のがん患者様のフォローアップをお願い出来ればと思います。

腫瘍の治療の難易度に応じて、最もふさわしい施設を紹介してほしい。

簡単に緩和ケア施設に送らないで。

腫瘍を疑った時点で相談できる垣根の低い科になってほしい。(あまりオーダーに慣れていない検査をこちらでするように言われ、その後の病理診断で不備があり困ったことがある)

腫瘍以外の疾患に対して理解が少ない

腫瘍内科がどんなものなのかがあまり分からないので、それを明確にすれば、こちらも依頼しやすいです。

腫瘍内科が化学療法を中心としたがん治療のスペシャリストであることもっと認知されるべき

腫瘍内科といっても臓器別だと範囲が広くないでしょうか

腫瘍内科の活躍の場が広がるといいと思います。

アンケート結果

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイス

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイスがあれば具体的にお書きください③

腫瘍内科医が何を得意とするのか、各科のがん専門医と何が違うかを教えてほしい。

腫瘍内科医が主に診ている患者が、腫瘍、抗がん剤以外の理由で状態悪化した時もある程度対応してほしい。
腫瘍内科医という職種が一体となって政治力を持ちましょう。

腫瘍内科医の数が増えて欲しい

受診のハードルが高い。一体何なら診てくれるのか。

就業における問題点を本人やサポートする会社に明示してほしい。それはできるだけ個々の患者の状態に応じたものが良いが、手間などで難しければ一般的なスケジュールを簡単なパンフレットのようなもので用意いただければ関係者で共有していきたい。

重症心身障害があっても差別しないで、健常者と同様に親身になって患者さんに寄り添ったアドバイスをしてほしい。

循環器疾患の予防にも気を遣ってほしいです

小児については、大学病院の小児科が抗癌薬治療を担っていることがおおいが、大学病院は医師の職場環境としてはよろしくなく、小児血液/腫瘍科は治療に集中できないと思う。

色々な領域の癌に対する一般的な知識を習得して欲しい

人数が増えてほしい

腎臓領域でいう透析医の様なスタンスと一緒に診療できると心強いだらうと考えます。

数が増えないとどうしようもない

整形外科とあまり関わりがないのでよくわかりません

精神疾患をお持ちの方も診ていただきたい

精神面でのケアも含めてお願いしたいです。

積極的にかわかり、副反応対策についても大いに活躍してもらいたい

積極的に肺癌診療に関わって欲しい。

全て見て欲しい

相談しやすい

相談しやすい環境が欲しい(勤務先内外に限らず)

総合腫瘍内科というイメージです。

他科から相談しやすいように、化学療法室、などといった相談センターを作るといいと思う

他科との連携

待ち時間を減らして迅速に化学療法をしてほしい。

当院に常勤してほしい

悩む症例の相談など

脳腫瘍などにより精神症状がでることがあり、共にみてほしい。

病気や予後についてもしっかりお話してほしい

病理診断科と連携してほしい

副作用についてもきちんとケアしてほしい。

幅広い癌腫がみられる反面、専門性に欠ける印象があります。病院内の立ち位置をしっかりと決める必要があるかと思っています。

幅広く見てほしい。

複数癌腫を合併している症例の総合的なマネジメントを期待します

末期になっても最後まで責任を持ってほしい。抗がん剤の副作用は自科で見てほしい。

薬の使い分けの解説

薬剤が増えてきており、より専門性をもって個別治療の選択肢を教えてほしい。

有害事象の多い薬剤、患者さんなど対応が難しい場合に対応してもらえたら助かる

曖昧で、わからない分野、とっつきずらさがある

アンケート結果

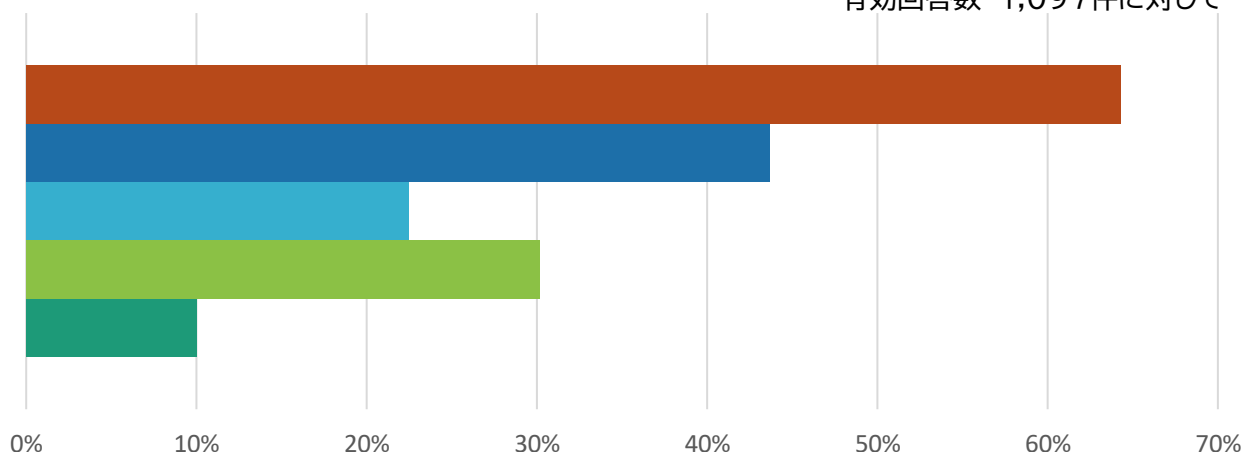
がん治療に関して、社会・医療界に対する要望

がん治療に関して、社会・医療界に対する要望としてお考えのものを
選択してください(複数選択可)

有効回答数 1,097件に対して

高騰する薬剤費について検討してほしい	705	64.3%
社会保険費の高騰について検討してほしい	479	43.7%
ドラッグラグの問題を解決してほしい	247	22.5%
少子高齢化における介護問題 老々介護 病病介護などについてもっと取り上げてほしい	331	30.2%
上記選択肢にはない	110	10.0%

有効回答数 1,097件に対して



- 高騰する薬剤費について検討してほしい
- 社会保険費の高騰について検討してほしい
- ドラッグラグの問題を解決してほしい
- 少子高齢化における介護問題 老々介護 病病介護などについてもっと取り上げてほしい
- 上記選択肢にはない

アンケート結果

がん治療に関して、社会・医療界に対する要望

がん治療に関して、社会・医療界に対する要望があれば具体的にお書きください①

85歳以上の超高齢者へのがん治療のガイドライン

PEACEプロジェクト等あるが、緩和ケアにおける鎮痛剤、オピオイドの使い方をもっと分かりやすく我々に広めて欲しい。

あまりがん治療に関与していないのでわかりません

いやなイメージの蔓延対策

エビデンスの乏しい代替医療しか受け入れなかった患者さんを、最終的に受け入れる施設や制度。

がん治療受けながら仕事ができる環境を作してほしい

やはり高騰する薬価について今後どうするかを国民全体で考えていくべきでしょうか。

遺伝子検査の取り扱いについて知りたい

医療経済の考察を

一般的な患者さんに対する治療法の例示

化学療法だけではなく、食事や運動や自然療法など、がん細胞の増減に関係するかの研究を進めてほしい。

化学療法の適応患者をさらに明確にして欲しい。

何でもかんでも治療するのが良いのか？

完治する抗がん剤があるわけではなく、家族の要望で寝たきりの人に施す症例を見たことがある。それは正しいことなのか？

患者さんの仕事と療養の両立

患者の年齢やADLに応じた治療が必要だと思う。

患者説明や看護にAIロボットを導入したい。

緩和医療

癌に対する正しい知識の啓発が重要です

癌は初期でも高齢や併存症で標準治療ができないこともありそのような症例の実践的なガイドラインがほしい

啓蒙が必要

後期高齢者の化学療法については、御本人の全身状態や「がん以外の基礎疾患による余命」を考慮して、高額医療を行ってほしい。

アンケート結果

がん治療に関して、社会・医療界に対する要望

がん治療に関して、社会・医療界に対する要望があれば具体的にお書きください②

抗がん剤はすべて効かない。

抗がん剤治療の中には有効性が高いとしても年間数千万円かかるような治療の場合、どこまで保険でカバーするのか悩ましい。

抗ガン薬の薬価について

高額な医療費のかかる治療法の年齢上限設定を

高額な抗がん剤使用が高齢者等に本当の意味で有益なのか、適応範囲の検討などをしてほしい

高齢者にどこまで治療適応と考えるのか

ADLとの兼ね合いを厳密にスケール化できないか

再発がんの治療を早急に実施する

最新治療はどういった人が対象を明確にし、希望者には受けられるシステムを速やかに構築してほしい

治療の限界について明確な線引きの合意が必要ではないか。

治療中の働き方、緩和ケアの受け入れ先の充実

自分としては無いが、若手外科医の薬物治療経験・知識の不足は将来問題になると思う。

社会保障の充実

女性が出産や育児を行う中でも、活躍できる職場環境の調整をお願いしたい

常に最新の治療・治験結果を平易に説明してほしい

生命予後のみが価値基準ではないという考えの普及

相談しやすさ

地方などで医療格差が大きい

超高齢の癌患者は緩和治療主体とし、高額な化学療法は自費診療とするように制度化してほしい

非専門医にもわかりやすいガイドラインがほしい

放射線治療に関してはまだ認知が低いとおもいます。

一般市民や医学生にむけての情報の適切な発信が必要

薬剤費の補助をさらに需実させてほしいです。

薬剤費を抑制する案

予防医学の充実

療養病院に転院するときは、包括ですので、薬価を認識したうえで薬剤を使用していただければと思います。

臨床試験の抜本的整備と評価、中立性が必要

アンケート結果

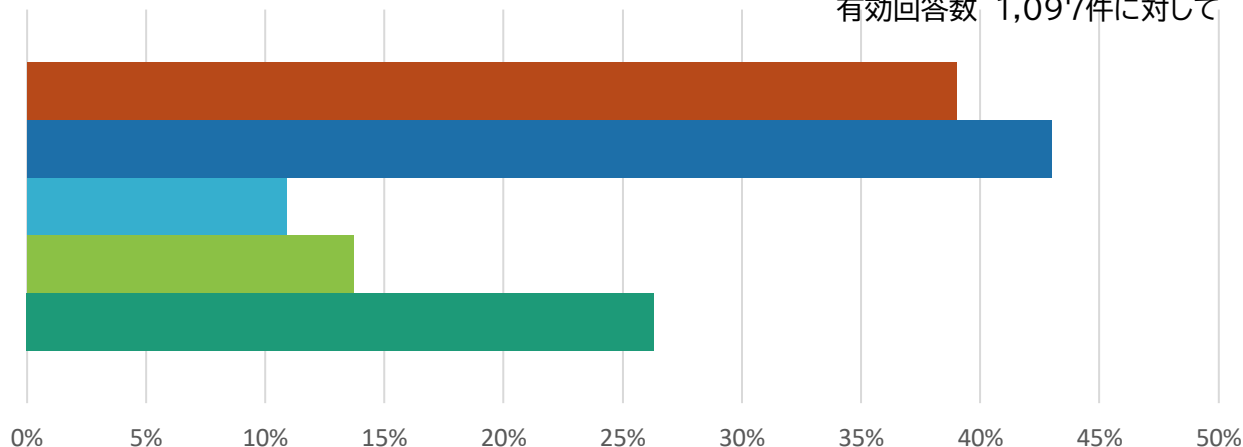
医師のキャリアプラン形成に関することで医療系メディアに望むこと

医師のキャリアプラン形成に関することで医療系メディアに望むこととお考えのものを選択してください(複数選択可)

有効回答数 1,097件に対して

認定専門医の情報を一元化してほしい	428	39.0%
様々な医師のキャリアを紹介してほしい	472	43.0%
キャリア相談会を設けてほしい	120	10.9%
キャリア形成についての勉強会を企画してほしい	150	13.7%
上記選択肢にはない	288	26.3%

有効回答数 1,097件に対して



- 認定専門医の情報を一元化してほしい
- 様々な医師のキャリアを紹介してほしい
- キャリア相談会を設けてほしい
- キャリア形成についての勉強会を企画してほしい
- 上記選択肢にはない

アンケート結果

医師のキャリアプラン形成に関することで医療系メディアに望むこと

医師のキャリアプラン形成に関することで医療系メディアに望むことがあれば
具体的にお書きください①

アンケート

キャリアがあがるほど給料が減り、仕事が多くなる問題について取り上げてほしい

キャリアとは何でしょうか。専門医を持って先進医療を担っている医師が素晴らしいのでしょうか。メディアの伝え方で世論は変わると思います。

キャリアプランは自分で考えるものではないでしょうか。

とりくみが不鮮明

なぜキャリアプランに悩むのか、根本的なところを取り上げてほしい。

もっと啓蒙が必要だと思います

医科だけがとりあげられるが、歯科でも抗がん剤の治療を行っているところはあることを知って欲しい。

医業以外で、非常勤などで医師を雇用したい一般企業との橋渡し。

医師の病院以外での活躍例などを取り上げ、選択肢を広げる機会が欲しい。

一般的な大学病院、市中病院、開業以外の選択肢をもっと教えてほしい。

英語論文を書くこと

外科医の薬物療法に関して役立つ情報・仕組みが必要

学術的に正しいと思われる内容を正確に発信して欲しい

癌治療の均てん化への取り組み、特に都会と地方での治療レベルの格差を解消するための取り組み

旧認定内科医がいつまで総合内科専門医を取得可能なのかがいまひとつわかっていないので知りたいです。

教授クラスの先生方の時のような、病院に住むようにいるのが医師の仕事で、家のことは奥様が全てするという時代ではなく、両立を目標にしている先生が多いと思います。
年齢が上の先生方にもそのような考え方を知っていただきたいです。

勤務医の給与と開業医の給与の違いが大きすぎる

後輩医師に専門医や博士号をとるためのプランを明示してあげたいが、現在はどのようなルートがあるかわからない。そこらへんの紹介をして欲しい。

広範なジャンルで取り組んでほしい

アンケート結果

医師のキャリアプラン形成に関することで医療系メディアに望むこと

医師のキャリアプラン形成に関することで医療系メディアに望むことがあれば具体的に書きください②

広報活動

国内のみでなく海外でのキャリアプランについても具体的に紹介して欲しい。

今後も頑張ってほしい

自身の将来性に不安がある。家族もいるため、移転、引っ越しはしんどい

女性医師のキャリアアップ、家事育児との両立

新規治療についての記事をセンセーショナルに取り上げないでほしい。限界も明確に。

専攻医制度がうまくいっていないことを示してほしい

専門医、指導医をもっているのだから、後輩育成になにか役に立つことがあれば教えてほしい。

専門医のハードルを下げて欲しい。

専門医の単位や受験要件などをまとめてほしい。

専門医の利点を教えてください

専門医機構が複雑でついていけない

専門医機構の悪業

専門医機構の動きがわかりにくいので、定期的になんかどうなっているか教えて欲しい。独自のキャリアを展開している人の話が聞きたい。

相談しやすさ

単位取得の支援

中立な立場でのアドバイス

賃上げ

優秀な人材を積極的に活用する仕組みの構築;ただし働かせすぎないように

アンケート分析

腫瘍内科知っているor知らない

アンケート分析

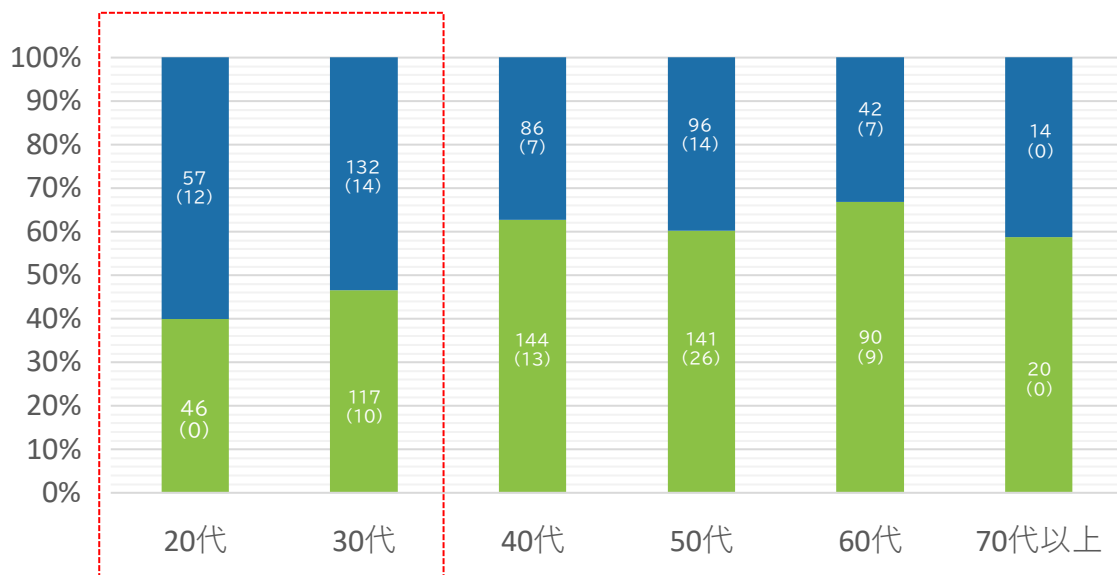
腫瘍内科について「知っている派」「知らない派」

「腫瘍内科について知っていますか」設問への回答において

- ・知っている派：「知っている」「大変よく知っている」
- ・知らない派：「よく知らない」「全く知らない」にわけ、分析を行った。

年齢別

■ 知っている派 ■ 知らない派

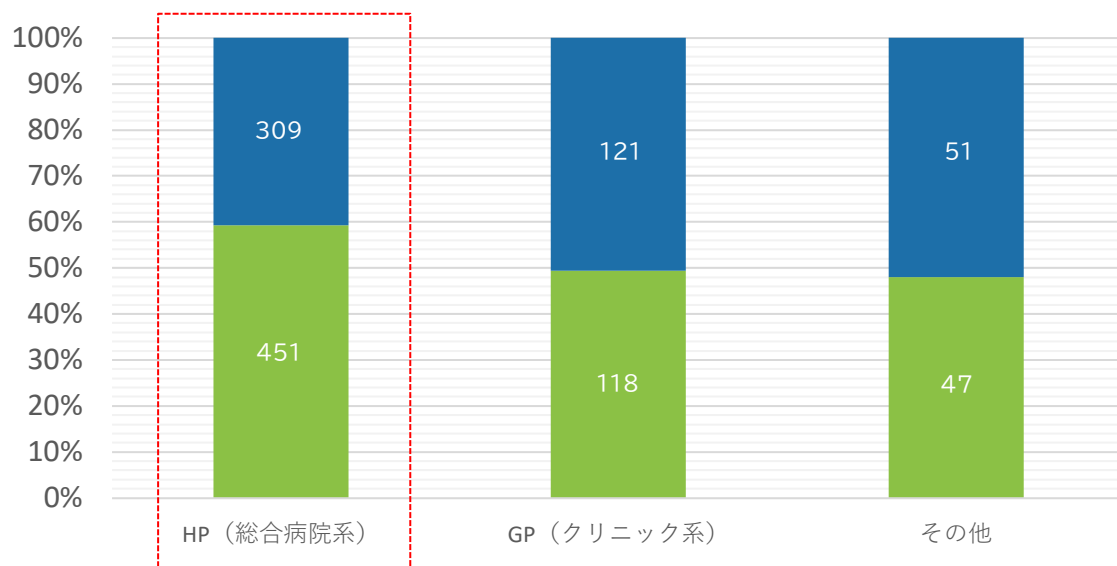


Point

- ・20代、30代においては、知らない派が過半数。40代以上になると各世代で、知っている派が過半数。
- ・20代/70代においては「大変よく知っている」は0。

所属先

■ 知っている派 ■ 知らない派



Point

- ・HPにおいてのみ、知っている派が60%近く。GP/その他はほぼ50:50の割合。

アンケート分析

腫瘍内科について「知っている派」「知らない派」

所属科別 上位20科

知っている派

一般内科	103
一般外科	42
消化器内科	40
消化器外科	36
呼吸器内科	33
産婦人科	28
総合健診科	26
初期研修医	20
精神科	20
循環器科	19
小児科	19
血液内科	18
整形外科	17
脳(神経)外科	17
皮膚科	16
内分泌代謝内科・糖尿病	15
放射線科	15
泌尿器科	14
麻酔科	14
耳鼻咽喉科	12

知らない派

一般内科	64
初期研修医	39
精神科	29
整形外科	25
循環器科	24
小児科	23
麻酔科	23
泌尿器科	22
皮膚科	20
眼科	19
脳(神経)外科	17
消化器内科	14
内分泌代謝内科・糖尿病	14
救急・集中治療科	11
呼吸器内科	11
腎臓内科・人工透析内科	11
耳鼻咽喉科	10
放射線科	10
リハビリテーション科	9
消化器外科	9

Point

・知っている派の中でも「一般外科」「産婦人科」「総合健診科」は知らない派の上位にはランクインせず。
※日頃からがん患者と接する機会が多いと自然と「腫瘍内科」の話が入ってくる可能性。

・「初期研修医」は票数の差こそあるものの、どちらもトップ10には入り、認知度が顕著に分かれる形となった。

アンケート分析

腫瘍内科について「知っている派」「知らない派」

がん治療に関して、社会・医療界に対する要望

	知っている派 616回答		知らない派 481回答	
高騰する薬剤費について検討してほしい	408	66%	297	62%
社会保険費の高騰について検討してほしい	261	42%	218	45%
ドラッグラグの問題を解決してほしい	155	25%	92	19%
少子高齢化における介護問題 老々介護 病病介護などについてもっと取り上げてほしい	198	32%	133	28%
上記選択肢にはない	57	9%	52	11%

Point

- ・知っている派/知らない派、いずれも総数に対するの回答割合は同じ。※誤差最大6%以内
- ・高騰する薬剤費については60%を超える要望率。

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイス

	知っている派 616回答		知らない派 416回答	
がん種にこだわらず患者さんを診てほしい	290	47%	215	45%
抗がん薬治療から緩和ケアまで診てほしい	226	37%	218	45%
自科で薬物療法を行うことが難しい症例を診てほしい	254	41%	144	30%
化学療法治療室の管理をしてほしい	164	27%	84	17%
腫瘍内科の仕事の範囲を明確にしてほしい	160	26%	118	25%
患者さんに抗がん薬治療をいつまで行うかどうかを明確にしてほしい	113	18%	102	21%
上記選択肢にはない	73	12%	57	12%

Point

- ・「自科で薬物療法を行うことが難しい症例を診てほしい」「化学療法治療室の管理をしてほしい」で知っている派が知らない派よりも回答割合が10%以上多くなっている。

※次項にて掘り下げて分析を行う。

アンケート分析

腫瘍内科について「知っている派」「知らない派」

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイス

腫瘍内科について知っている + 抗がん薬治療をしている派の回答割合

	抗がん薬治療をしている 284回答		抗がん薬治療をしていない 332回答	
がん種にこだわらず患者さんを診てほしい	148	52%	142	43%
抗がん薬治療から緩和ケアまで診てほしい	103	36%	123	37%
自科で薬物療法を行うことが難しい症例を診てほしい	142	50%	112	34%
化学療法治療室の管理をしてほしい	93	33%	71	21%
腫瘍内科の仕事の範囲を明確にしてほしい	87	31%	73	22%
患者さんに抗がん薬治療をいつまで行うか どうかを明確にしてほしい	49	17%	64	19%
上記選択肢にはない	20	7%	53	16%

Point

・知っている派/知らない派で差が出た(10%以上の差異のある)、
「自科で薬物療法を行うことが難しい症例を診てほしい」「化学療法治療室の管理をしてほしい」に加え、
「がん種にこだわらず患者さんを診てほしい」についても回答率50%あり。

アンケート分析

腫瘍内科について「知っている派」「知らない派」

腫瘍内科医への要望・腫瘍内科医が活躍するためのアドバイス

腫瘍内科について知っている＋抗がん薬治療をしている派の所属先

	回答数	がん種にこだわらず 患者さんを診てほしい 148回答		自科で薬物療法を行うこと が難しい症例を診てほしい 142回答		化学療法治療室の 管理をしてほしい 93回答	
消化器外科	33	20	14%	22	15%	14	15%
一般外科	32	20	14%	16	11%	14	15%
一般内科	34	16	11%	12	8%	5	5%
呼吸器内科	25	13	9%	12	8%	10	11%
消化器内科	33	13	9%	17	12%	7	8%
産婦人科	17	12	8%	9	6%	7	8%
血液内科	18	12	8%	7	5%	7	8%
泌尿器科	13	7	5%	8	6%	4	4%
耳鼻咽喉科	11	5	3%	9	6%	4	4%
皮膚科	11	5	3%	6	4%	4	4%
呼吸器外科	10	5	3%	4	3%	4	4%
頭頸部外科	5	4	3%	4	3%	3	3%
総合診療科	6	3	2%	3	2%	4	4%
脳(神経)外科	8	3	2%	4	3%	0	0%
整形外科	4	2	1%	1	1%	1	1%
内分泌代謝内科・糖尿病	4	2	1%	2	1%	0	0%
小児科	3	1	1%	0	0%	2	2%
歯科・口腔外科	3	1	1%	2	1%	1	1%
循環器科	2	1	1%	1	1%	1	1%
放射線科	1	1	1%	0	0%	1	1%
初期研修医	3	1	1%	1	1%	0	0%
乳腺(外)科	2	1	1%	0	0%	0	0%
その他・回答なし	1	0	0%	1	1%	0	0%
緩和ケア科	1	0	0%	1	1%	0	0%
リハビリテーション科	1	0	0%	0	0%	0	0%
腎臓内科・人工透析内科	1	0	0%	0	0%	0	0%
婦人科	2	0	0%	0	0%	0	0%

Point

- ・外科からの回答が多く、外科で診きれない症例が増えてきている可能性がある
- ・呼吸器/消化器の回答割合が多く、次いで産婦人科/血液内科/泌尿器科と続くため、実際の部位別がん罹患数※1に比例して、回答がなされている(お悩みがある)と予想する。

※1 参考サイト:日本対がん協会「正しい知識の普及啓発」(https://www.icancer.jp/about_cancer_and_knowledge)

アンケート分析

腫瘍内科について「知っている派」「知らない派」

腫瘍内科について知っている + 抗がん薬治療をしている派のピックアップコメント



がんセンター
消化器外科
40代 男性医師

Q: 腫瘍内科医への要望・アドバイス

A: 結局何の疾患を診るのがよく分からない

Q: がん治療に関して、社会・医療界に対する要望

A: 化学療法の適応患者をさらに明確にして欲しい



総合病院
一般外科
50代 男性医師

Q: 腫瘍内科医への要望・アドバイス

A: 気軽に相談できる環境がほしい



大学
一般外科
60代 男性医師

Q: 腫瘍内科医への要望・アドバイス

A: 個別症例の相談に応じてほしい

Q: がん治療に関して、社会・医療界に対する要望

A: 臨床試験の抜本的整備と評価、中立性が必要。

Point

・外科医も腫瘍内科医に相談したい場面が増えていそうな状況ではあるものの、気軽に相談できる(ご自身の立場的にも?)場がなく、自科で完結しなければいけない状況にある、という可能性が見えた。



Copyright© exMedio2023